

令和5年度旭川未来会議2030 子育て分野 第2回分野別会議 会議録

- 1 **開催日時** 令和5年7月19日(水) 午後6時から午後7時45分まで
- 2 **開催場所** 旭川市第二庁舎 3階 問診指導室(旭川市7条通10丁目)
- 3 **出席者(参加者)** ※敬称略, 五十音順
喜多柚月, 菅原千聖, 田中慶人, 早川由理, 松澤美沙, 丸山恵理, 森本優菜, 山田覚, 吉田育子
- 4 **出席者(市側)**
(運営事務局)
子育て支援課 清原子育て企画係主査
(統括事務局)
広報広聴課 乙坂広聴係主査
- 5 **会議の公開・非公開** 公開
- 6 **傍聴者** なし
- 7 **意見交換**
テーマである「自分らしく子育てできるように、みんなでできること」について、参加者による意見交換を行った。
主な意見の内容は次のとおり。

<子育てに関心を持ってもらう方法について>

- ・ 旭川での妊娠・出産、子育てに関係する制度のほか、受けられる支援、利用できるサービスや必要なお金などがわかりやすくまとめたパンフレットのようなものがあるかどうか。
- ・ これから子育てする人は、出産や子育てで必要なことや、いつどれくらいのお金がかかるかなどがわからないので、そういうことがわかりやすくまとまっているといい。
- ・ 周りで妊娠・出産する友達が増えてきて、いろいろと話を聞く機会が多くなってきた。でも、男性の友達からそういう話は聞かないので、男性向けに発信できたらいい。
- ・ 自分が産む立場なら見ると思うけど、男性は見ないと思う。
- ・ いいものを作っても見てもらえなければ意味がない。関心がない人にどうしたら見てもらうことができ、伝えられるか。
- ・ 例えば、出前講座みたいなものをして、興味がない人は来ない。でも、そういう人もいつかは親になる。伝えるのは難しい。
- ・ ウェブサイトでも見られたらいいし、こども一ると連携するのも有効ではないか。

- ・ 紙で作成する場合は、挿絵やカラーを工夫し、手に取ってもらいやすくすることが必要。
- ・ 今の時代は動画も伝わりやすいと思う。こども一るとリンクしてると相乗効果も高まる。
- ・ こども一る、ガイドブックは当事者向けだと思うので、自分ごとじゃなくても目に入る工夫が必要。
- ・ 転入予定者や移住を考えている人など、市外向けにもPRできるといい。
- ・ テレビで東川町が取り上げられていた。イメージとして伝わりやすく、住んでみたいと思う内容だった。
- ・ 仕事の研修で道外の人を招いたときに、雪遊びに注目していた。遊び方や準備に驚いていた。冬の遊びを旭川の魅力としてアピールできないか。
- ・ 大事なことは、ツールの存在をどのように認知してもらい、興味を持ってもらうか。
- ・ 子育ての最初はわからないことだらけ。
- ・ 助けになるイベントや行事があっても、そもそも知らなかったり、行きにくかったりする。
- ・ 最初の興味・関心付けとしては、「旭川のリアルな子育てをまとめる」という切り口はいいと思う。

<こども一るについて>

- ・ せっかくいいサイトなのに、あまり知られていないのはもったいない。
- ・ 子育てに限定せず、誰もが利用できるサイトになれば、子育てに関する情報も自然と目につくようになる。
- ・ 子育て向けはもちろん、観光や移住などへの波及も見込めるので、是非リニューアルしたい。
- ・ 飲食店の情報も多く掲載されているので、若い人たちも使えるかもしれない。
- ・ 子育ては全方位的に関係、波及するものなので、将来的には、子育てを切り口として、旭川のすべてを網羅したサイトになるといい。バラバラだったサイトがひとつにまとまることで経費削減になるかもしれない。
- ・ ウェブサイトもいいし、インスタグラムでもできるかもしれない。
- ・ SNSは若い人たちにも身近だし、更新や修正の即時性も高いので活用できたらいい。
- ・ 「子育て」のハッシュタグを付けて投稿してもらおう。いろんな声、生の声が聞ける。みんなで発信してもらおう。

<これから子育てする人に子どもや子育てへの関心を持ってもらうには>

- ・ 手法も大事だが、目に付きやすくするためには発信する機会を増やすことも大事。
- ・ 時代の変化にあわせて発信方法を変えていくことが大事。
- ・ 学校や会社などで強制的に話を聞いてもらえる時間や機会があれば、興味を持ってもらうきっかけになるかもしれない。
- ・ 対面で伝えるということも大事。

<地域での子育てについて>

- ・ ニュースなどでは、子どもが増えている地域は、親世代、高齢者や地域住民が関わっていると

いう話を聞く。自分は両親と同居しており、子育てにおいて助けられることも多い。親世代等との同居には安心感などのメリットも多いと思うが、敬遠する人が多いのはなぜだろう。

- ・ 自分たち（親）だけで子育てはできない。親や祖父母に助けられている。
- ・ 同居していると言うと、ほぼ全員から「大変だね」と言われる。人それぞれ育った環境の違いなど様々な原因があると思う。実際に同居してみると、助けられる部分も多く、自分は嫌だという感情はない。
- ・ 親や高齢者世代は、子育ては女性がするものという意識が強い気がする。
- ・ 他人のおじいちゃん、おばあちゃんのほうが適度な距離感を保てる。
- ・ 血縁の場合は、親世代も自分の価値観を遠慮無く言いやすいと思うし、聞く側の若い世代も自分の意見を主張しやすい時代になってきたから、対立しやすいのかもしれない。
- ・ リアルな家族の同居は難しい面が多いと思う。同居することの不満と安心感は表裏一体だと思うが、その安心感の部分だけを取り出せないか。地域のおじいちゃん、おばあちゃんと交流する機会があって、疑似実家みたいな場やコミュニケーションが取れないか。
- ・ 高齢者も子育てに参加できるといい。高齢者向けの発信方法もある。
- ・ 高齢者の知見や経験を子どもに伝えてもらえるのはとても有意義なこと。なにもしなければ失われてしまうものなので、どうにか継承できないか。
- ・ こども食堂のような要素を含みながら、実家のような雰囲気がある場があるといい。気軽に話を聞いてもらえて、子どものことも見てもらえる。
- ・ そういう地域になれば、安心して子育てできると思う。お金や制度のほか、こういうことも子育てに大事なことだと思う。
- ・ 地域や家族とゆるくつながること。
- ・ そういつながりができていれば、小学校に入学したあとの見守りにつながる。
- ・ 子どもや子育てに関わることは、高齢者にとってもいい刺激になる。
- ・ 中学生や高校生など、おにいちゃん、おねえちゃんのような関係性もいい。

<トライアルについて>

- ・ リアル子育てガイドブックを作って、若い人の意見を聞いてみたい。
 - ・ インスタグラムも試してみたい。
- 事務局で「あさひかわリアル子育てガイドブック（紙ベース）」とインスタグラム投稿ページの試案を作成し、参加者の友人・知人（5～10人程度）からアンケートを通じて意見や感想を得ることとした。

以上